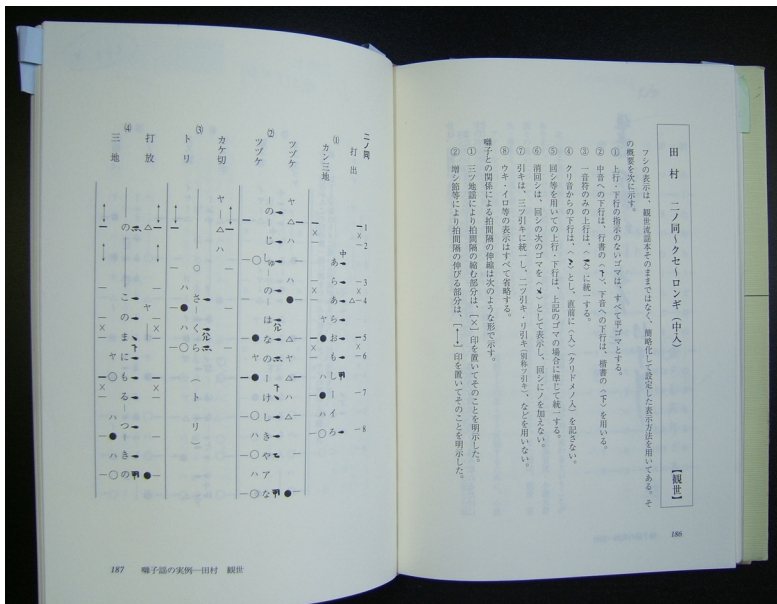
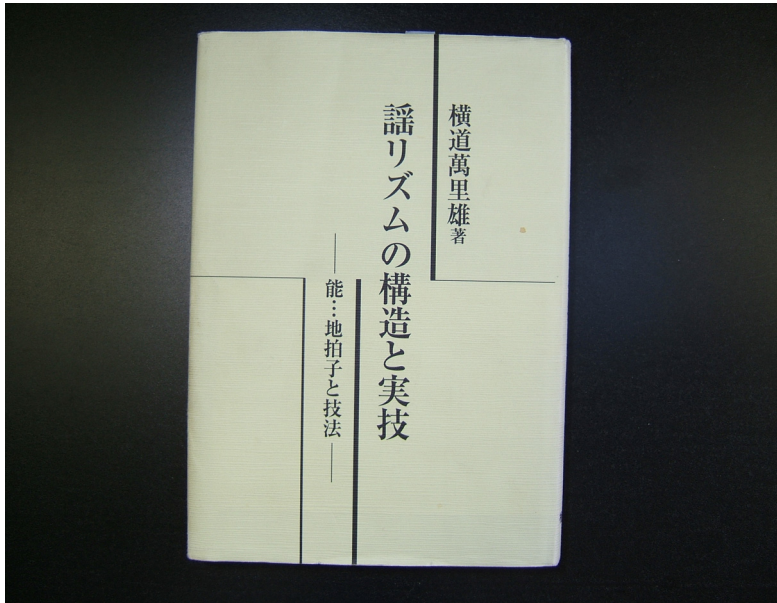


横道万里雄 『謡リズムの構造と実技』

平ノリの上旬の文節構成により謡い出し位置が変わることを重視する等、山崎(72頁)や三宅(95頁)の地拍子論を正統に継承する。記述は簡潔。山崎や三宅は現代の地拍子を対象にしたが、横道は、引きが奇数拍のみに入る点、増節が入ると句が江戸時代式の当りになる点等の指摘によって、地拍子の説明に歴史的深度を加えた。興味深いのは、巻末の割付。実際の聞こえに合わせて八拍と一拍の間の間隔を大きくする等、現代的で面白い。『観世』平成14年10月号の書評(拙稿)、および本目録あとがき参照。



標題 内題…謡リズムの構造と実技

標題紙…謡リズムの構造と実技 | 能…

地拍子と技法 |

奥 附…謡リズムの構造と実技 | 能…

地拍子と技法 |

その他…謡リズムの構造と実技 | 能…

地拍子と技法 | (表紙)、謡リズムの構造と実技 (背)

著者 奥 附…横道万里雄

その他の場所…横道万里雄(背)

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…檜書店

出版年…平成14(2002)

その他の場所…

形態 冊数…一冊 頁数…二三七頁

寸法…22×15 (cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考